

## 第3学年○組道徳科学習指導案

令和7年10月2日（木曜）第5時限  
指導者

1 主題名 つながり合って生きる 内容項目〈C-（12）社会参画、公共の精神〉

2 教材名 平和をつなぐ（とびだそう未来へ）

3 主題設定の理由

## (1) ねらいとする価値について

近年、ロシアとウクライナの戦争や各地で紛争が相次いでいる。令和7年には戦後80年が経ち、戦争を実際に経験した人の高齢化が進み、これまでと同様の平和活動が継続困難になっている。また、各国で外国人の排除などを訴える極右政党が躍進するなど、世界全体でも国際協調よりも自国第一主義の考え方方が支持される風潮が出てきている。平和な社会を実現していくためには国際協調が必要であり、そのためには一人一人が社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会のあり方を他者と協働しながら模索していく必要がある。

現代の日本で過ごしていると、戦争や紛争は実感のないものである。しかし、平和な社会の実現は自分たちの生活や未来を守ることにつながっていく。持続可能な平和活動を目指す人々の活動や思いにふれることで、平和な社会づくりに参画する意識を高めるきっかけにしたい。

## (2) 生徒の実態について

生徒たちは、戦争や紛争について歴史の授業で学習したり、ニュースなどで見聞きしたりすることがあるが、自分ごととしてはとらえられていない。また、平和な社会について普段から考えることは少ない。持続可能な平和活動を目指した新しい取り組みである本教材を通して、平和な社会づくりに参画する大切さや難しさについて考え、社会に主体的に関わるために大切なことについて考えを深めたい。

## (3) 教材について

本教材は、被爆体験を語り継ぐ人々の自発的奉仕とその継続の難しさ、有償化への葛藤に誠実に向き合いながら、お互いの生活を支え、平和実現の希望をつないでいこうとする意志を当事者の言葉によって伝える内容である。生徒が戦争体験の語り継ぎについて考えることを通して、平和で持続可能な社会を形成する一員として、自分にできることを実践していこうとする態度を育てたい。

## 4 ねらい

- 持続可能な平和活動について考えることを通して、社会参画の大切さと難しさについて考え、主体的に社会へ関わる気持ちを高めることができる。

## 5 準備 (教) タブレット端末 (生) タブレット端末

## 6 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
7	1 教材の内容を確認する。 (1) 平和な社会を実現するために行われていることを確認する。 △ 平和な社会を実現するためには、世の中ではどんなことをしているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争体験を伝える活動</li> <li>・ 平和維持活動（PKO）</li> <li>・ 困っている人への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで知っている活動について共有させる。</li> <li>○ 全体で共有する。</li> <li>○ 平和な社会の実現を目指してさまざまな活動が行われていることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平和を目指した活動について確認することができたか。 (発表・観察)</li> </ul>

	<p>(2) 教材の内容を確認する。</p> <p>△ どんな人たちの、どのような話でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島で平和活動を行っているNPOに参加している人たちが、ボランティアではなく、報酬を得て活動するように変えた。</li> </ul> <p>(3) これまでの平和活動はボランティアとして無償で行うものとされてきた常識を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで確認させる。</li> <li>○ ボランティアから報酬を得る形に変えたことを全体で押さえれる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ NPOスタッフの檜崎さんが報酬を受け取ることに申し訳なさを感じたことを確認する。</li> <li>○ NPOを運営している住岡さんの旅行会社を通した平和ガイドや、学校に講師を派遣する「平和学習を売り込む」という教科書の記述を確認する。</li> </ul>	
30 (37)	<p>2 住岡さんたちの活動から、平和をつなぐために必要なことについて考える。</p> <p>(1) 住岡さんたちの活動について考える。</p> <p>▲ 平和活動を有償化することへの共感度は何%ですか。</p> <p>〈共感できる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平和活動が負担になってしまい、報酬を得る方がよい。</li> <li>・ 平和活動を続けていくためには必要なこと。</li> <li>・ 参加したい人は増加すると思うのでよいのではないか。</li> </ul> <p>〈共感できない〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お金儲けをすることが目的になってしまい危険がある。</li> <li>・ お客様の聞きたくないことは話さないようになってしまい危険がある。</li> <li>・ お客様の聞きたい話ばかりになってしまい、伝えていくべき体験談が語り継がれなくなってしまう。</li> </ul> <p>△ 「平和をつなぐ」ために日本にできることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからも無理なく活動していくける平和活動の仕組みを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心の数直線を用意し、共感できるなら赤色、共感できないなら青色であることを確認する。</li> <li>○ 個人で考えさせる。</li> <li>○ ファシリテーションでさまざまな意見を班で出し合うよう指示する。</li> <li>○ ファシリテーターは意見を引き出すことに重点を置くよう伝える。</li> <li>○ 班で出た意見を全体で共有する。</li> <li>○ 意見の偏りがある場合は、少ない方の意見を補足する。</li> <li>○ 「お金がもらえれば平和活動に参加するか」と問い合わせし、報酬があっても参加しない考えをもつ人もいることを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前の問い合わせた「平和をつなぐ」などに関連する言葉に注目させ、日本や私たちにできることを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを発表できたか。（観察）</li> <li>○ 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深めることができたか。（観察）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>持続可能な平和活動について考えることを通して、社会参画の大切さと難しさについて考え、主体的に社会へ関わる気持ちを高めることができたか。 (発表・観察)</p> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国や地方自治体がお金を補助する。</li> <li>・ 語り部だけでなく、動画やネットも活用しながら平和活動をしていき、より多くの人へ知ってもらう。</li> <li>・ 自分のできる活動に積極的に参加する気持ちをもつ。</li> <li>・ 平和活動について知る。</li> </ul>	<p>○ 一人一人が社会に参画する気持ちも必要なことに気付かせる。</p>	
8 (45)	3 授業を通して感じたことや思ったことをまとめ、振り返る。 △ 今日の授業で考えたことや感じたことを振り返りシートに入力しましょう。	<p>○ 振り返りシートに入力させる。</p> <p>○ 授業を振り返り、平和な社会の実現するために大切なことについて考えさせる。</p>	<p>○ 平和な社会を実現するために大切なことについて、自分の意見をまとめることができたか。 (振り返りシート)</p>

## ○ 板書計画

16 平和をつなぐ

住岡さんたちのNPO

ボランティア（無償）→報酬ありへ

## Q 平和活動の有償化への共感度は?

### 〈共感できる〉

- ・活動が負担  
→報酬ある方がよい
  - ・続けるために必要
  - ・参加者は増加



### 〈共感できない〉

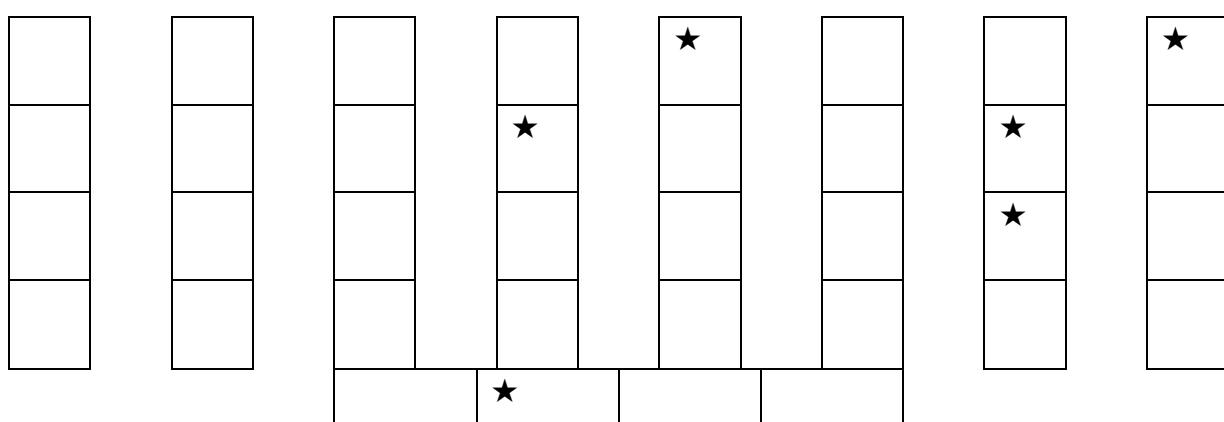
- ・金もうけX
  - ・客の聞きたい話のみ
  - ・継承されない話も

Q 「平和をつなぐ」ために  
日本にできることは?

- ・継続できる活動の仕組み
  - ・国や地方自治体からの補助
  - ・動画やネット→多くの人へ
  - ・自分のできるものへ参加
  - ・活動を知る

○ 座席表

教 卓



★ 積極的に表現活動ができる生徒